

P413

サンタロールの催眠鎮静作用

小林製薬株式会社

○長谷川 靖之

【目的】サンダルウッド精油は、アロマテラピーにおいて様々な症状の改善を目的として広く用いられており、その主要成分であるサンタロールはラットに対して鎮静などの中枢抑制作用を示すことが報告されている。今回は健常男女 12 例によりサンタロールの催眠鎮静作用を検討した。

【方法】試験の施行について書面にて同意が得られ、常用薬を服用しておらず、慢性疾患の病歴が無く、非喫煙者で昼寝の習慣が無い男女 12 例(男性 6 例、女性 6 例、年齢 20～23 歳)を対象とした。対象に対し、サンタロール(純度 98%) およびラベンダー精油を 5×10^{-4} ppm となるように蒸散し、対照として水を蒸散した。曜日効果を考慮の上、第 1 夜は環境馴致を目的としサンプル提示は行わず、第 2 夜から第 4 夜を実験夜とし、上記 3 成分を順序効果を考慮して 1 日ごとに提示した。就寝 1 時間前の午後 10 時から起床直前の午前 7 時まで室内にサンプルを蒸散し、睡眠時および覚醒時の 1 分毎

の行動量はアクチグラフ (AMI 社製) を用いて連続的に測定した。

【成績】分散分析の結果、入眠期及び主睡眠期の行動量はサンプル間の有意な主効果が認められ、サンタロール呈示の場合に最も行動量が低下していた。また、繰り返しのある分散分析の結果、サンタロールを呈示した翌日の層別化行動量の比率において有意差が認められ、サンタロール呈示の場合、ラベンダーおよび水と比較して、60-100 mG の低行動量の比率が増加し、220-270 mG の高行動量の比率が減少していた。

【結論】サンタロールを呈示することで睡眠中及び日中の行動量が低下することからサンタロールは健常男女に対して催眠鎮静作用を示すことが示された。本試験では入眠時から覚醒直前までサンタロールを呈示し続けた結果、その薬理的作用が日中まで残存したことが示唆された。